明治期外務省調書集成

明治期の失われた外交文書の復元、
外務省編『日本外交文書』を補完すべき多数の重要資料の発掘と編集。

明治期外交資料研究会編・解説

■第二回シリーズ
日露講和関係調書集　全9巻

クレス出版

『明治期外務省調書集成』刊行にあたって

第二次大戦の終決以前にあっては、日本における外交、軍事に関する政府文書は、国家の高度の安全保障にかかわる機密文書とみなされ、その閲覧、引用などは極く一部の政府関係者に限られていた。戦後になって多くの戦前の機密文書が公開され、内外の一般研究者によるこれら根本史料への接近が可能となったことは、日本外交史及び軍事史研究の飛躍的発展をもたらす上に画期的な意義を有することとなったことは叡々の要もあるまい。しかし、いわゆる「外務省調書」については、今日に至ってもなおその存在があまり知られていない現状にある。それは「外務省調書」が当時の外交記録の即時的保存を目的として作成されたものであり、また、外務省内や要路の執務参考として極く限られた範囲にのみ配布されたものであったため、印刷の全貌が外部に明らかにされなかったことなどの理由によるものであろう。

そこで、「外務省調書」の希少価値と内容の重要に鑑み、先に刊行した第一回シリーズ『日清講和関係調書集』に引き続き、第二回シリーズとして今回『日露講和関係調書集』を復刻刊行する。

「外務省調書」は外交交渉当事者、外交事務担当者によって、自身の経験あるいは事務処理の過程の上で作成された報告書である。したがって、外務本省と在外公館との往復電報、公信等を中心とした外交文書、いわゆる「外務省記録」と相互補完的な関係にある重要史料であり、日本外交のより生き生きとした歴史事実を解明するためにも必要不可欠な貴重な史料である。日本外交史及び軍事史研究の分野では、まだまだ秘密外交時代の旧来の所説・通説・概説を根本史料に基づき再検討すべき問題点が多々存在する。故に、「外務省調書」の復刻刊行は実に意義あることと確信する。

明治期外交資料研究会（五十音順）

稲生　典太郎（元中央大学教授）
岩壁　義光（法政大学講師）
佐藤　元英（駒沢大学助教授）
桧山　幸夫（中京大学教授）
堀口　修（宮内庁主任研究官）
安岡　昭男（法政大学教授）

明治期外務省調書集成　第二回シリーズ　日露講和関係調書集　全9巻

●収録一覧

『日露交渉ニ関スル往復　自明治三十六年七月至明治三十七年二月』

「満韓問題」解決のため、明治三十六年七月二十八日よりロシアと直接交渉を開始するが、その終結は明治三十七年二月六日ロシアとの外交関係断絶となる。本調書はその間の応酬経過を詳述した、駐露公使栗野慎一郎と外務大臣小村寿太郎との往復電信記録。

『日露事件要報』

小村外相が東京駐在のロシア公使に国交断絶を通告した明治三十七年二月八日、連合艦隊は旅順口のロシア艦隊を襲撃した。本調書はそれ以後より明治三十九年十月までの、時局に関して公布された法規及び海軍・陸軍の戦況報告を速成を期して編纂されたものである。

『日露事件外評一斑』

外国各地新聞雑誌等の論評、要人の声明等の抄録を転載したもので、外務省臨時報告委員によって、明治三十七年六月より明治三十八年十一月までの間、数か月分毎にまとめて編纂され印刷に付された。当時の国際関係における日露戦争の位置付けを意識しての調査である。

『日露講和会議録』及び『日露講和談判筆記』

明治三十八年八月九日の日露両国全権委員の非正式会談より、講和条約成立までの本会議の全貌が、日本側全権委員小村寿太郎、高平小五郎とロシア側全権委員ウィッテ、ローゼンとの応酬をとうして記録されている。

『満州ニ関スル日清交渉会議録』及び『満州ニ関スル日清交渉談判筆記』

日露講和条約によってロシアから日本に譲渡された南満州におけるロシアの諸権利について、清国の承諾をとりつけるとともに、南満州における日露戦争後の日清間の諸問題について交渉をおこなった記録。明治三十八年十一月十七日より同年十二月十九日までの、日本側小村寿太郎全権大使、内田康哉駐清公使と清国側慶親王、瞿鴻禨、袁世凱との間の秘密会議録である。

●構成一覧

第1巻	日露交渉ニ関スル往復　自明治三十六年七月至明治三十七年二月 日露事件要報　総目次、一
第2巻	日露事件要報　二～三
第3巻	日露事件要報　四～六
第4巻	日露事件要報　七
第5巻	日露事件外評一斑　一～四
第6巻	日露事件外評一斑　五～六
第7巻	日露事件外評一斑　七～八
第8巻	日露講和会議録 日露講和談判筆記
第9巻	満州ニ関スル日清交渉会議録 満州ニ関スル日清交渉談判筆記

＊造本体裁：A5判／上製函入／クロス装
＊刊行予定：一九九五年四月末日
＊揃定価：一四九、三五〇円（本体一四五、〇〇〇円）

日露交渉ニ關スル往復

○第一　（電信）　明治三十六年七月二十八日發

在露　栗野全權公使　　小村外務大臣

滿洲事件ノ發展ハ帝國政府ノ專心留意シタル所ニシテ而シテ其ノ現狀ハ帝國政府ヲシテ轉タ關心ニ勝ヘサラシム

蓋シ露國カ滿洲撤退ノ件ニ關シテ爲シタル一面清國ニ對スル約定ト一面列國ニ對スル證言トヲ履行スル偏ニ注視緘默ノ態度ヲ恪守シテハ新ニ要求ヲ提出シ滿洲ニシテ露國ハ滿洲撤退ノ意思ヲノアルト同時ニ其ノ韓國國境那邊ニ底止スルヤヲ知ラサラ若シ露國ヲシテ滿洲ヲ無制限安固ト利益トニ有害ナル狀態

戰報

海軍戰報

○大海報第一號東鄕聯合艦隊司令長官報告（三十七年二月十日發　同十一日午後二時着電）

聯合艦隊ハ去ル六日佐世保ヲ出發シタル後總テ豫定ノ如ク行動シ八日正子我驅逐隊ハ旅順ニアル敵ヲ攻擊セリ當時敵艦隊ノ大部隊ハ旅順港外ニアリテ我驅逐隊ノ水雷ニ罹リシモノ少クトモ「ポルターワ」形一隻巡洋艦「アスコリド」外二隻アリシモノト認ム我艦隊ハ九日午前十時旅順口沖ニ達シ正午ヨリ約四十分間港外ニ殘留セル敵艦隊ヲ攻擊セリ此攻擊ノ結果ハ未タ明瞭ナラサルモ敵ニ少カラサル損害ヲ與ヘ大ニ彼レカ士氣ヲ阻喪セシメタルモノト信ス歟ハ漸次港内ニ逃走スルモノノ如シ午後一時戰鬪ヲ止メ引上ケタリ此攻擊ニ於ケル我艦隊ノ損害ハ輕小ニシテ寸毫モ戰鬪力ヲ減セス死傷ハ約五十八名ニシテ内戰死四、負傷五十四ナリ

仁川方面ニ向ヒタル分遣艦隊ノ戰況ハ既ニ瓜生司令官ヨリ直接電報セルカ如シ

我驅逐隊ハ敵ノ砲火ヲ冒シテ攻擊ヲ果シ其大部ハ既ニ本隊ニ合セリ艦隊ニ御乘艦ノ各殿下ハ皆御無事ナリ我將卒一般ノ戰鬪ニ從事セル狀況ハ頗ル沈着ニシテ恰モ平常ノ演習ニ異ナラス戰鬪後ニ於ケル士氣ハ益〻旺盛ニシテ然カモ擧動ハ愈々沈着ナリ今朝來風波アリテ艦船間ノ交通不通ナル爲メ未タ各艦ヨリノ詳報ニ接セス不取敢右概況ノミ報告ス

講和會議錄第一號

明治三十八年八月十日ノ會議

午前十時十五分開會

列席者

日本國　講和全權委員小村男爵高平氏及講和會議書記官佐藤氏安達氏

落合氏

露西亞國　講和全權委員「ウヰッテ」氏「ローゼン」男爵及講和會議書記官「ド、プランソン」氏

兩國全權委員ハ會議ノ豫備事項ニ記名セリ

尋テ兩國全權委員ハ互ニ其ノ全權ニ關シ左ノ二點ニ付日本全權委員一露國全權委員ニ交付セラレタ確ナルコトヲ證明スヘキ何等此點ニ關シ小村男爵ハ日本國ニ於シ且若シ露國全權委員之ヲ希望ス

講和談判筆記第一回本會議

明治三十八年八月十日午前十時十五分開會

列席者

日本國　小村高平兩全權委員佐藤安達及落合書記官

露西亞國　「ウヰッテ」「ローゼン」兩全權委員「プランソン」「コロストヴェッツ」及「ナボコフ」書記官

「ウヰッテ」氏　昨日日本全權委員ノ全權委任狀ノ譯文ヲ領收シタルカ該譯文ニハ副署ナカリシ、飜譯ノ原本ト一致ナルコトヲ證明スル外務次官ノ證明ナカリシ

小村男　我　皇帝陛下ノ全權御委任狀ハ原本ニ於テ御親署及副署アレトモ其ノ譯文ニハ何等證明ナキヲ我邦ノ慣例トス乍去若シ露國委員ニ於テ強テ譯文ノ證明ヲ必要トセラルルニ於テハ本員等ニ於テ之ヲ證明スヘシ

「ウヰッテ」氏　此ノ事タル全ク形式上ニ止マルモ譯文ノ原本ト相違ナキコトヲ公然證明セラルヽコト必要ナリト思考スルヲ以テ願クハ左樣取計ハレタシ

小村男　諾、直ニ證明スヘシ

「ウヰッテ」氏　否、唯形式上ノコトニ止マルヲ以テ後刻一午餐後ニナリトモ行ハレタシ

小村男　然ラハ後刻爲スコトヽスヘシ

■クレス出版好評既刊書　呈詳細内容見本

外務省執務報告

全12巻　臼井勝美・濱口學・原口邦紘解説

外務省の各局部が年度毎に行なった執務を、網羅的かつ具体的に把握できる資料。太平洋戦争に至る日本外交の全貌を明らかにする。

東亜局　全6巻　A5判／総五、〇六二頁／揃価一三九、〇五〇円
欧亜局　全3巻　A5判／総二、五八六頁／揃価七二、一〇〇円
亜米利加局　全3巻　A5判／総二、〇三四頁／揃五六、六五〇円
第二期全9巻　本宮一男・臼井勝美解説
通商局　全4巻　A5判／総四、〇〇〇頁／揃価一〇九、一八〇円
條約局　全2巻／情報部　全1巻
調査部　全1巻／文化事業部　全1巻
A5判／総四、三〇〇頁／揃定価一一七、四二〇円

外務省公表集

全12巻　佐藤元英監修・解題

外務省から文書によって発表された主として声明、談話、通告、説明、交換公文などの外交関係記事を蒐集し、記録に留めるために編纂されて、公刊されたもの。大正八年から昭和十八年までの二二輯と「満州事変及上海事件公表集」「支那事変関係公表集」も含む。

A5判／総七、三〇〇頁／揃定価一八七、四六〇円

日清講和関係調書集

全13巻　明治期外交資料研究会編

明治期外務省調書集成第一回　日本外交史研究のための根本資料である『日本外交文書』の欠落部分を補完するのみならず、日本外交のより生き生きとした歴史事実を解明。「日韓交渉略史」「日清韓交渉事件記事」「日清講和始末」「露独仏三国干渉要概」「蹇々録」他。

A5判／総八、〇二二頁／揃定価一九八、七九〇円

露西亜月報

全22巻／別冊　外務省調査部第三課編　吉村道男解説

満州事変後のソ連邦の全貌を多角的にとらえようと、ソ連邦に関する調査、重要時事問題および法令集要覧を加え、本省と在外公館の執務並びに日満における調査機関の調査上の参考に資するとともに、ソ連事情啓発のため昭和9年1月より同19年3月刊行された。

A5判／総一八、五〇〇頁／揃定価五一五、〇〇〇円

朝鮮総督府施政年報

全30巻（明治39年～昭和16年版）**朝鮮総督府編　広瀬順晧解題**

明治三九年韓国統監府が設置されて以来、明治四三年の日韓併合をへて昭和一六年版まで刊行された日本の朝鮮統治の年次報告書である。行政、司法、治安、財政、金融、交通、産業、教育等各分野を網羅している、日本の朝鮮支配研究の基礎史料の一つである。

A5判／総約一六、一〇〇頁／揃定価三九一、四〇〇円

南洋叢書

全5巻　満鉄東亜経済調査局編　原田勝正解題

第一次大戦後、とくに一九三〇年代にはいり日本の資源獲得のために目標となった地域（蘭領東印度、佛領印度支那、英領マレー、シャム、比律賓）の広範囲に及ぶ高度な資料集である。経済・商業・貿易・交通・国際関係等の研究者の方にご利用いただける資料。

A5判／総三、一〇〇頁／揃定価七二、一〇〇円

樺太廳報

全7巻　樺太廳文書課編　荒澤勝太郎解題

樺太廳の施政並に法令に関する意図や其の内容を詳かにし、又汎く本島の産業・文化に関する研究意見を紹介することを趣旨とした官庁誌。第一号（昭和12年5月）～第二十号（昭和13年12月）の全号全頁、「樺太時報」の目次・樺太日誌・資料月報を全号復刻。

A5判／総四、四二〇頁／揃定価九九、九一〇円

〒103 東京都中央区日本橋小伝馬町14－5 メローナ日本橋
☎03(3808)1821　FAX03(3808)1822
KRESS 株式会社クレス出版